

興道会だより

米沢仏教興道会 〒992-0042 米沢市塩井町塩野1476-1 興道北部保育園内 TEL0238-40-0044 FAX0238-37-8399 発行責任者/熊野龍雄



閉園を迎える興道親和乳児園

会長挨拶



米沢仏教興道会 会長
熊野龍雄

平成三十一年、本年は米沢仏教興道会が創立されて百三十二年であります。本年は残念な事があります。興道親和乳児園を三月三十一日に閉園することとなりました。閉園の理由は耐震基準に満たないためであります。大変残念であり、関係する皆様からお詫び申し上げます。本会役員の新顔合わせの法話は、余目町 宝泉寺住職 采川道昭老師にお話を、お願いいたしました。「仏道の基礎」の話であります。般若心経のお話でありました。

本会、本年の目標は
心の安心
であります。

「心の安心」とは
仏法によって心の安らぎを得て
よりどころを得て
安心なる日を過ごす。

今年一年、精進致しましょう。 合掌

平成31年度 事業計画(案)

- 4月上旬 **正会員会総会**
- 4月中旬 **報恩供養会**
- 6月8日(土) **第95回 花まつり**
- 6月 **正会員会**
- 10月 **戦没者慰霊祭**
- 12月中旬 **歳末助け合い募金(ののさま募金)**
- 2020年
- 1月下旬 **正会員会・新年会**
- 3月1日 **機関紙「興道会だより」第18号発刊**

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。

平成30年度 事業報告

- 正会員会総会** 於：招湯苑
■とき/平成30年4月6日(金)
- 報恩供養会** 於：本部研修室
■とき/平成30年4月19日(休)
- 第94回花まつり** 於：米沢市市民文化会館
■とき/平成30年6月9日(出)
- 正会員会、花祭り反省会** 於：本部研修室
■とき/平成30年7月24日(火)
- 戦没者慰霊祭** 於：本部研修室
■とき/平成30年10月11日(休)
- 歳末助け合い募金(ののさま募金)** 於：本部研修室
■とき/平成30年12月12日(休)
- 新年会** 於：志ん柳
■とき/平成31年2月1日(金)
- 機関紙「興道会だより」第17号発刊**
■とき/平成31年3月1日(金)

※その他、花まつり関係事業、幹事会、編集委員会等を開催。



米沢仏教興道会 幹事 西蓮寺 伊藤竜信



「縁起(えんぎ)」という言葉があります。「縁起が良い」、「縁起でもない」など、運の良し悪しや吉凶の兆しを指す言葉としてよく使われますが、もともとは、物事の道理、全ては関連し合っており成り立つ、という仏教の世界観を表す言葉です。この縁起についての法話で、ベトナムの禅僧ティクナット・ハンは、聴衆に一枚の紙を掲げ「この中に雲が見えますか?」と問いかけました。一枚の紙は、紙を作る人、原料となる木、木を育てた雨、雨を降らせた雲など多くの「縁起」の連鎖があつてこそ、ここに「有る」ことができます。さらにいえば太陽の光や、紙がその場に至る過程に関わる全ての存在をその中に見ることができるとしよう。つまりどんな事柄も「縁起」の視点を持つてば、そこに豊かなつながりや意味を見出すことができる、という逸話です。

浄土宗を開いた法然上人が詠まれたこんな歌があります。
つきかげの いたらぬさとほなけれども ながむるひとの ころろにぞすむ
(月の光に照らされない里はない。が、その光は、眺める人の心にこそ澄み渡る)

闇を照らす月の光(仏の慈悲の例え)は、常にあらゆる場所を分け隔てなく照らしている、しかしその光の本当の美しさ、素晴らしさは、眺めようとする人にこそ届くのである、という意味の歌です。

どうか皆さまも日常の中に、ご自身の「紙の中の雲」や「月の光」を見つけ、心豊かに過ごされますよう。

合掌

歳末募金御礼

ののさま募金

今年度も歳末助け合い募金にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。

平成三十年十二月十二日、興道会本部にてののさま募金の受付が行われ、各保育園・老人ホームの利用者様、職員の皆様、そして、会員御寺院様より浄財をお預かりいたしました。

同年十二月二十日、仏教興道会 藤戸幹事長より、米沢市社会福祉協議会を通じ「歳末助け合い募金」として寄付させていただきました事をご報告いたします。

皆様よりお預かりしました善意の結集は、米沢市内の福祉施設、団体や支援を必要とする世帯へ届けられます。

ご協力いただきましたこと重ねて御礼申し上げます。

金額 一一四、三四八円

合掌



仏教興道青年会

歳末助け合い募金運動

米沢仏教興道青年会では、年末の活動として歳末助け合い募金運動を行っております。

平成三十年十二月十五日、十六日の二日間にわたり、イオン米沢店北口、南口にて沢山の方よりあたたかい浄財をお預かりいたしました。

こちらも、同年十二月二十日、仏教興道青年会 赤尾会長より、米沢市社会福祉協議会を通じ「歳末助け合い募金」として寄付させていただきました事をご報告いたします。

金額 二七、九三七円

合掌



興道親和乳児園のあゆみ



旧親和寮の写真



現園舎の写真



現園舎の写真



旧園舎の写真

～あゆみ～

- 昭和15年11月 戦没者遺族家庭援護のため護国の家(親和寮)を開所する。
- 昭和23年5月 児童福祉法施行に伴い、母子寮として認可される。
- 昭和49年10月 親和寮を廃止する。
- 昭和50年4月 興道親和乳児園を定員40名で開所する。

興道親和乳児園の閉園にあたり

興道親和乳児園 園長 聖山宗徳



昭和五十年四月一日に開所した興道親和乳児園は、四十三年という長い間、子ども達一人一人のすこやかな成長を見守り、平成三十一年三月三十一日にその役目に幕を閉じようとしております。

歴史を振り返れば、昭和五十年代、当時の木造建築が主流な中、保育園でも早く最先端の鉄骨造りを施し、前身の親和寮から一辺させた外観は、道行く人々の足を止めたことでしょうか。そして時は経ち、歴代の園長先生方によって増築、補修整備が繰り返され、園長先生方の思いが詰まった現在の園舎の姿があります。

その園長先生方の思いとは、子ども達が安全に安心して過ごせる環境で、いきいきとすこやかな成長を願ってだと私は感じております。そんな思いを感じながら、登園してくる子ども達が、毎日楽しく、一生懸命遊んでいる姿を見ると、この園舎がいつまでも有り続けて欲しいという願いもあります。

東日本大震災でもビクともしなかった園舎ですが、その骨格とも言える鉄骨は、もはや限界にきており、当法人でも打開策を模索し、議論を重ねた据えやむなく閉園に至ったのです。

興道親和乳児園の園長を拝命し一年数ヶ月。興道親和乳児園の最期の園長として歴代の園長先生や職員の思いを胸に、この園舎の最期の務め(子ども達を見守る温かい慈しみ)を全うできるよう職員共に一丸となって支えて参ります。

戦没者慰霊祭



第94回 花まつり

